

国語科 *Manifesto*

〈京華中高国語科からのメッセージ〉

わたしたちは毎日の生活の中で、日本語でものごとを考え、会話をし、読み書きをしています。しかし、その会話のことばは正しい日本語でしょうか、文章の正しい読み取りや、正しい文字表現ができているのでしょうか。あらためてそう問われてみると、自信をもって「はい」と答えられる人ばかりではないはずです。とくに中学生・高校生は、いわば日本語の初心者であり、この時期にこそ、正しい日本語を身につけておく必要があります。本校の国語科では、毎日の生活の中でしっかりと日本語でものごとを考え、正しい日本語で会話をし、正確に文章の読み書きができるように学習指導をしています。大学入試を勝ち抜くための国語力はもちろんですが、将来にわたり、日本語を母国語として豊かに生きていくための総合的な国語力の育成を目指しています。

★ Mission 1 すべての基礎となる読解力

映像や音など、世の中にはさまざまな情報があふれています。そうした中でも、文字や文章による情報は、長い歴史の中で蓄積されてきた知恵であり、簡単に衰えることはありません。文字や文章を正しく読み取る力は、生きていく上で欠かすことはできないのです。国語（現代文）の授業では、小説や随筆、論説文など、厳選されたさまざまなジャンルの文章を教材として、音読・意味調べと漢字調べ（国語辞典と漢和辞典は全生徒が共通のものを使用）・本文内容の読み取り・問題演習などを行い、正しく文章を読解する技法を学びます。また、課題図書を読んで「読書記録」を作成、読書への関心を高めて読書量を増やすことで、読解力伸長の一助にしています。こうした一連の学習を通して、大学入試に対応できる読解力はむろんのこと、社会人として不可欠な文章理解力を養います。

★ Mission 2 正しい日本語による表現力

日ごろ誰もが普通に使うことばですが、正確に用いることは決して簡単なことではありません。とりわけ作文や小論文など、文章表現を苦手とする中高生は少なくありません。自分の使うことばに意識を配り、正しい日本語で自分自身の意志・感情など正確に伝える表現力は、心して学習しなければたやすく身につくものではないのです。国語科では、中学での「国語表現」の授業を通じて、文法・漢字・書写・作文・聞き取りなどを軸とする表現学習を展開し、正しい日本語による表現力を養います。さらにそうした基礎力を土台として、高校では大学入試の小論文や、将来のさまざまな文書作成に対応できるだけの表現力・構成力・発想力を鍛えていきます。なお、授業における生徒たちの表現活動（作文・読書記録・俳句・短歌など）は、『国語科通信』（年3回発行）で紹介しています。

★ Mission 3 現代に生きる古典を読む

古典とは、長い年月を通して読み継がれてきた書物です。ただ古いだけではありません。時代を超えて人々にさまざまな影響を与え続けてきた作品であり、いつの世にも読まれるべき価値・評価の高い書物が古典です。もちろん、作者や登場人物の物の見方・考え方・感じ方・言葉遣いなど、現代人とは違った点もあります。しかし、現代人に通じる点も多く含まれています。作品に表現された先人の知恵に接し、わたしたちの生活をより豊かにすることが古典を学ぶ大きな目的の一つです。国語科では、中学1年から『小倉百人一首』の暗唱、カルタ競技会など通じて古典への興味付けを行い、中学3年からは、国語科作成のオリジナルテキスト『いにしへぶみ』を使用した本格的な学習を開始します。さらに、高校での講読や演習においてさまざまなジャンルの古典に触れ、大学入試に対応できる読解力をつけるとともに、将来にわたり、古典に親しむ姿勢を養います。

★ Mission 4 漢字検定・日本語検定への挑戦

本校では、定期試験・実力試験とは別に、国語力を測るもうひとつの手段として「漢字検定」と「日本語検定」を導入しています。「漢字検定」は準会場校として生徒全員が受検、中学3年までに3級、高校1年で準2級、高校2年で2級合格を目指します。「日本語検定」は、中学生を中心に希望者が受検、3級が合格目標級です。